

**原子力システム研究開発事業
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：核変換システム開発のための長寿命 MA 核種の高速中性子捕獲反応データの精度向上に関する研究</p> <p>研究代表者（研究機関名）：片瀧 竜也（東京工業大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：岩本 修（日本原子力研究開発機構）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：堀 順一（京都大学）</p> <p>研究期間及び研究費：平成 29 年度～令和 2 年度（4 年計画） 61 百万円</p>					
項 目	要 約				
1. 研究の概要	<p>核変換システム開発に必要とされる高速中性子エネルギー領域におけるマイナーアクチニド（MA）の中性子捕獲断面積の精度向上を目指し、高速中性子エネルギー領域での捕獲断面積データを高精度に測定できる技術を開発するとともに、これを適用した断面積測定結果を反映した核データ評価を行うことにより、信頼性の高いデータを整備することを目的として、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中性子フィルター装置の開発 2) NaI 検出器を用いた中性子捕獲断面積の測定 3) MA 試料中の Pu 分析技術の開発 4) MA 核データファイルの整備 				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50px; vertical-align: middle;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中性子フィルター装置の開発、NaI 検出器を用いた中性子捕獲断面積の測定、MA 試料中の Pu 分析技術の開発、MA 核データファイルの整備と、工夫をしながら成果に至ったことは評価ができる。今後、他核種への展開に期待したい。 ・ 核変換システム開発のための核データに関する研究は重要であり、難しい挑戦ではあるが、今後の研究開発戦略を示せるよう、研究全体の骨格となる仮説を立てることが望ましい。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <ol style="list-style-type: none"> S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中性子フィルター装置の開発、NaI 検出器を用いた中性子捕獲断面積の測定、MA 試料中の Pu 分析技術の開発、MA 核データファイルの整備と、工夫をしながら成果に至ったことは評価ができる。今後、他核種への展開に期待したい。 ・ 核変換システム開発のための核データに関する研究は重要であり、難しい挑戦ではあるが、今後の研究開発戦略を示せるよう、研究全体の骨格となる仮説を立てることが望ましい。 		<ol style="list-style-type: none"> S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中性子フィルター装置の開発、NaI 検出器を用いた中性子捕獲断面積の測定、MA 試料中の Pu 分析技術の開発、MA 核データファイルの整備と、工夫をしながら成果に至ったことは評価ができる。今後、他核種への展開に期待したい。 ・ 核変換システム開発のための核データに関する研究は重要であり、難しい挑戦ではあるが、今後の研究開発戦略を示せるよう、研究全体の骨格となる仮説を立てることが望ましい。 				
	<ol style="list-style-type: none"> S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない 				